

演題番号：7

演題名：Aブロイラー食鳥処理場における伝染性ファブリキウス嚢病

発表者名：○仁平美咲 阿左美有右 森河隆史 中村正治 嘉数浩

発表者所属：中央食肉衛生検査所

## 1. はじめに

伝染性ファブリキウス嚢病（IBD）は IBD ウイルス（IBDV）による鶏のファブリキウス嚢（F 嚢）を中心としたリンパ組織の壊死性病変を主徴とする疾病であり、免疫抑制により鶏大腸菌症など他病を誘発する。平成 25 年 4 月に A ブロイラー食鳥処理場（A 処理場）に搬入している一農場にて、高度病原性 IBD が発生したとの情報を得た。A 処理場では、情報のあった農場を含め全部廃棄率が高い農場が複数ある。そこで今回、その一因として IBD の関与を疑い調査したので報告する。

## 2. 材料及び方法

平成 25 年 6～8 月の期間中 A 処理場に搬入された 8 農場中 5 農場について、35 日齢前後で全部廃棄率 2.0%以上のロットにおいて F 嚢に特徴的な肉眼病変を認め、全部廃棄処分された鶏の F 嚢、各農場 2～6 検体の合計 23 検体を材料とした。

病理組織学的検査では、HE 染色にて F 嚢における壊死性病変の有無を判定し、マウスモノクローナル抗体による IBDV 抗原陽性の検出を行った。

ウイルス学的検査では、IBDV 陽性抗原を検出した検体のうち各農場 1 検体の計 5 検体について、RNA を抽出し、RT-PCR を実施した。次に RFLP による株の型別を実施した。

## 3. 結果

病理組織学的検査では、HE 染色により 23 検体中 20 検体の F 嚢リンパ濾胞で、リンパ球が壊死・脱落し、細網細胞への置換がみられた。免疫染色により 23 検体中 15 検体の F 嚢リンパ濾胞で、マクロファージ、リンパ球に IBDV 陽性抗原が検出された。

ウイルス学的検査では、RT-PCR 検査により 5 検体中 3 検体から IBDV 遺伝子を検出し、それらのうち 2 株が RFLP により高度病原性株のパターンを示した。

全部廃棄率の推移では、高度病原性株が検出された 2 農場中 1 農場では 10 月以降、全部廃棄率が 2.8%をピークに減少し、1 農場では 1.4～2.1%と高い状況を推移している。その他の 3 農場については 2.0～3.1%の全部廃棄率をピークとして 10 月以降減少した。

## 4. まとめ

全部廃棄率の増加があり調査を行った 5 農場中 5 農場の検体で F 嚢に壊死性病変を認め IBDV 抗原を検出した。3 農場中 2 農場の検体で高度病原性株のパターンを示した。1 農場では全部廃棄率が高い状況が続いており、今後も廃棄率の推移に注視する必要がある。食鳥検査の際には、鶏大腸菌症などの全部廃棄率の増加が認められた場合、IBD の関与も視野に入れることが重要である。